

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成 28年 4月 6日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ オカヤマシナカクヒライガックアンゼンアンシンネットワーク
 団体名 岡山市中区平井学区安全安心ネットワーク
 所在地 XXXXXXXXXX
 連絡先 XXXXXXXXXX
 フリガナ ハナオカ エイタロウ
 代表者氏名 会長 花岡 栄太郎 XXXXXXXXXX

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) <input checked="" type="checkbox"/> ア 地域課題解決 <input type="checkbox"/> イ 地域課題掘り起し <input type="checkbox"/> ウ 地域計画づくり <input type="checkbox"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり <input type="checkbox"/> オ その他
事業名	平井学区地震・津波・洪水からの避難マップ2016の作成と活用
事業実施区域 (小学校区)	岡山市立平井小学校区
事業 実 施 内 容	<p>※実施事業の概要</p> <p>①避難に必要な情報をマップに整理し活用 2012年(平成24)年に作成した「岡山市中区平井学区地震・津波・洪水からの避難マップ」の改定期になった。既存マップの要改善点を調査し、改善方法を検討・決定し、その後明らかになった新しい情報を整理・盛り込み、マップづくりを通して地域で共有化をより進める事業をおこなった。</p> <p>②通学途上時に地震が発生した時の安全確保に必要な情報をマップに整理し活用 平井小学校の通学路は主要な災害時避難路を構成している。5年生全児童が2014(平成26)年度に取り組んだ、通学時に震災が発生した時の対応マップに児童が記載した情報を整理し、本マップの白黒印刷面に盛り込んだ。これにより毎日通学路することにより通学路の状況に詳しくなっている児童が発見した、通学路の危険箇所の情報を学区住民が共有化することができるようになった。</p> <p>③高齢者・障がい児(者)を支援・搜索する時に必要な情報をマップに整理し活用 高齢者の災害時・平常時の備え(地域の人間関係・情報の共有)について情報の整理・共有を図るために、高齢者対策活動をおこなっている平井すずらん交流会、障がい児教育をおこなっている岡山大学教育学部附属特別支援学校、学区内の養護老人ホームから現状と対策案のヒアリングをおこなった。対象者が所在不明になった時、搜索者が探すための地理情報(路地・抜け道・あぜ道・水路等の危険箇所)の共有を図り、行動に移す時(一緒に探す)助けになるようにマップに細街路、あぜ道まで極力記載した。</p> <p>◆事業実績を示す写真(2枚程度)、作成した報告書やチラシ等を添付</p>



写真1：講演「宮城県の災害と復興」を聞く。
2015.11.07

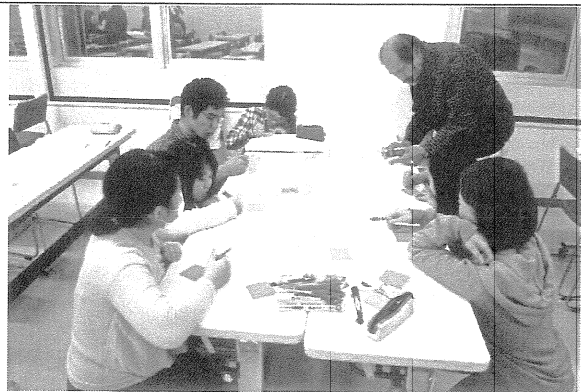


写真2：ワークショップ「安全安心・防災避難マップ2016
を仕上げよう」を実施 2015.11.07



写真3：マップを平井小学校校長先生にわたす。
2016.02.02



写真4：地域の各団体の役員にマップの説明
2016.03.01

事業目的とその達成状況と効果

ア 地域課題解決⇒解決を目指した課題の達成状況

2012年（平成24）年に作成した「岡山市中区平井学区地震・津波・洪水からの避難マップ」が改訂時期になった。要改善点の意向調査は、社会人対象のワークショップと、平井小学校の授業で精度の高い把握ができた。指摘された主な点は、避難距離を把握するために鳥瞰図でない方が良い。ハザードマップ等要素が多すぎて見にくい、と言った点である。「平井学区地震・津波・洪水からの避難マップ2016」で表現方法と内容を全面的に見直し改善した。

イ 地域課題掘り起し⇒掘り起こりにより明らかになった課題等

高齢者・障がい児（者）を支援・搜索する時については、探索対象の児童・生徒、高齢者の状況により、いなくなる状況が大きく異なることが解った。どの場合も、搜索者が探すための地理情報（路地・抜け道・あぜ道・水路等の危険箇所）の共有が重要であることが明らかに成ったため、極力道路・あぜ道を正確に地図に描き込んでいった。

課題は、道路だけでなく民地内の通路、建物の間、裏側等に入り込む場合を想定しなければならぬが、マップ2016よりはるかに細かい調査と描き込みが必要になる。さらに細部まで描くマップを作成することしか解決策はないのではと考えている。

ウ 地域計画づくり⇒作成された計画等

本活動においては、地域計画は作成していない。

エ 地域課題解決型の地域組織づくり⇒目指した地域組織づくりの達成状況

本活動は、安全・安心ネットワークが主体となり、連合町内会と学区内の諸団体の協力を実施した。上記の地域組織は永年整備された地域組織であり、本活動はこの地域組織の協力で実施した。

前回のマップ2012の活動と比べて進展したのは地域と平井小学校、岡山大学教育学部特別支援学校、山陽学園大学との協力関係が大きく進展した点である。特に平井小学校の児童の災害避難マップづくりは、マップ2016の内容の重要な要素となった。

企画などの工夫と情報公開	<p>オ その他⇒定めた目標の達成状況 掲げた目的とその達成状況 事業を実施したことで生まれた新たな効果 ほぼ、定めた目標どおりの達成状況である。</p> <p>本事業を実施したことで生まれた新たな効果は、平井小学校の授業と連携したマップづくりができたことと、岡山大学教育学部特別支援学校の障がい児（者）を捜索する時に必要な情報をマップ、という要望には、認知症高齢者の捜索と合わせて、マップとしての一つの解決策を見出すことができた。</p> <p>◆実施にあたって工夫したこと マップ 2016 で工夫した点は以下の 4 点である。 ①マップ 2012 の要改善点を調べた。 ②要改善点を改善する方法を検討し解決した。 ③平井小学校の災害避難授業のマップ 2016 への反映 ④平井小学校、岡山大学教育学部特別支援学校との協力</p> <p>◆住民への活動の周知広報の取組 マップ2016の配布は連合町内会の新聞「平井だより」（2016年1月1日配布）に折り込む形式でおこなった。マップ作成の趣旨説明は、単位町内会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会、愛育委員会、交通安全対策協議会、コミュニティ協議会、消防分団、電子町内会ホームページ委員会、すずらん交流会の代表に説明し住民、各団体構成員に伝わるように依頼した。</p> <p>教育機関では、平井小学校、平井幼稚園、山陽学園短期大学附属幼稚園、平井保育園、緑ヶ丘中学校、岡山大学教育学部特別支援学校、山陽学園大学、山陽学園短期大学、ワールドオプティカルカレッジの児童・園児・生徒・学生用に配布した。福祉施設では学内に立地する養護老人友楽園、特別養護老人ホームおもいやり（災害避難所）、グループホームアミーユ平井、ケアハウス、NTTグループケアサポート岡山、居宅介護支援事業所げんき、のスタッフ用に配布した。</p> <p>連合町内会HPにマップの画像が3月16日掲載された。これによりインターネット接続している住民は閲覧可能になった。</p> <p>マップは約3000部を保存している。今後機会を捉えて防災イベント、平井小学校新入生等への配布を行っていく。</p> <p>◆評価 評価は2016(H28)年1月1日の配布後半年くらいの間を受けるのがよいと考えている。今後、安全・安心ネットワークの会議、平井祭り等で機会を作り評価を聞いていきたい。平井小学校が2016(H28)年度も災害避難教育を実施されるならば小学生の評価を受ける良い機会と考えている。</p>
次年度計画	<p>◆次年度に引き継がず活動を完結する場合はその理由（課題が解決したからなど） 避難マップづくりの活動は、必ずしも毎年実施する必要は無い。前回の活動が 2012 年であり、今回の実施まで 4 年間の間隔を空けた。3～4 年の間隔を空けて実施するのがこの種類の活動だと考えている。4 年の間隔を空けると、地図を読むことができるようになる小学生高学年が入れ替わることになる。その間の使用のためマップを約 3000 部持つ状態で事業年度を終えた。次年度以降、機会を見てマップを配布・説明を行っていく。</p>

事業実施者としての評価・感想など

※事業を実施することを通じて持続可能な地域づくりをすすめることができたか、あるいは持続可能な地域づくりを担う人づくりにつながったかなど、本事業についての評価を

平井学区の場合は、連合町内会、安全・安心ネットワークを調整機関として、各団体の協働体制が整い、活動が行われている。その中で課題と言える点は2点ある。第1点は各団体の役員の高齢化である。次の世代の加入については継続的に努力しているが十分と言えない。第2点は地域団体と地域に立地する教育機関、高齢者施設との連携である。本事業においては、後者については予想どおり、マップづくりについては平井小学校との連携が、マップの検索への活用では岡山大学教育学部附属特別支援学校との連携が、マップの高齢者避難への活用については高齢者施設の協力が得られる等の進展があったと評価している。

■収 支 決 算 書

◆収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	100,000 円	100,000 円	
負担金	100,000 円	100,000 円	(安全安心ネットワークの自己資金)
参加費	円		
計	200,000 円	200,000 円	

◆支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容 (必ず記載してください)
消耗品費	円		
食糧費	円		
印刷製本費	200,000 円	200,000 円	マップ印刷費
通信運搬費	円		
手数料	円		
使用料	円		
原材料費	円		
委託料	円		
報償費	円		
旅費交通費	円		
計	200,000 円	200,000 円	

■ 事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
平井学区安全・安心ネットワーク	本活動の主体
地域住民の方々	講演会・ワークショップ(山陽学園大学公開講座として開催)へ参加し学習と活動を実施
平井学区連合町内会	マップの学区への配布
平井学区の各団体(単位町内会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会、愛育委員会、交通安全対策協議会、コミュニティ協議会、消防分団、電子町内会ホームページ委員会、すずらん交流会)	マップづくりの趣旨・活用方法について各団体、住民への伝達
平井学区連合町内会電子町内会ホームページ委員会	マップのHPへの掲載
岡山市立平井小学校	災害避難教育を本活動と連携。災害避難教育の実施。本活動への児童の活動成果の提供。
岡山大学教育学部附属特別支援学校	障がい児(者)を支援・検索する場合についての情報提供
平井交番	高齢者・障がい児(者)を支援・検索する場合について、認知症高齢者が歩む道等を教わる。 マップの活用
平井小学校、平井幼稚園、山陽学園短期大学附属幼稚園、平井保育園、緑ヶ丘中学校、岡山大学教育学部特別支援学校、山陽学園短期大学、ワールドオプティカルカレッジ	マップの園児保護者、児童、生徒、学生への配布
養護老人友楽園、特別養護老人ホームおもいやり(災害避難所)、グループホームアミーユ平井、ケアハウス、NTTグループケアサポート岡山、居宅介護支援事業所げんき	マップのスタッフへの配布
山陽学園大学	調査・意見収集・編集

■事業実施経過

※時系列に沿って記入。事業実施のための準備や打ち合わせ会合日なども記入。補助事業実施決定前の準備活動についても記入

年 月 日	内 容
平成 27(2015)年	
3月中旬～	岡山市区づくり推進事業補助金申請を検討。後期申請に決定。申請準備
7月 2日	岡山市区づくり推進事業補助金等交付申請書変更
8月 28日	岡山市区づくり推進事業補助金等交付申請書区役所提出
8月 28日	平井小学校の授業について事前打ち合わせ
8月 30日	平井学区広報部全体会議
9月 1日	すずらん交流会
10月 9日	平井小学校の授業において、マップ 2012 の様改善点調査 児童が 2014 年度作成した登下校中の災害避難マップの借り受け
10月 12日～	マップのベースになる地図を入手し、作成方法を検討開始。マップを作製開始。ベースになる地図をどれにするか検討を行う。
10月 18日	平井学区防災訓練に参加し取材
11月 7日	山陽学園大学公開講座において以下の講義を聴く。①岩手県でボランティア 報告: 澁谷俊彦・岡馬凜太郎・吉田桃子(山陽学園大学学)、②宮城県の被災と復興 講師: 石塚(宮城県名取市副市長)、③宮城県ゆりあげ港の被災と復興 講師: 櫻井広行(ゆりあげ朝市理事長)、④平井学区の防災の現状 花岡栄太郎(平井学区安全・安心ネットワーク)、⑤児童による地震・津波から命を守る学習 原田かおり(平井小学校教諭)、⑥障がい児(者)の搜索 高橋章二(岡山大学教育学部附属特別支援学校副校長)
	ワークショップ「安全安心・防災避難マップ 2016 を仕上げよう」でマップ 2012 の要改善点を指摘、盛り込みが必要情報の意見出しをおこなう。
11月 8日～	現地確認データ、講演会、ワークショップ、平井小学校児童のマップ記載内容を整理しマップ原稿を作成開始
11月下旬	マップ原稿ほぼ完成。安全安心ネットワーク、連合町内会、平井小学校、岡山大学教育学部附属特別支援学校との意見調整・校正
11月 29日	すずらん交流会に出席
12月 1日～	マップ原稿校了印刷会社渡し。
12月 6日	連合町内会平井だよりの会議に出席。マップの配布依頼。
12月 20日	マップを平井学区連合町内会により配布。1月 1 日まで各戸に配布。
平成 28(2016)年	学区内の教育機関、高齢者福祉施設にマップを配布し、説明と活用依頼
2月 2日	平井学区地域づくり会議の場で各団体へマップについて説明と活用依頼
3月 1日	平井学区連合町内会電子町内会ホームページ委員会でマップについて説明と活用依頼。マップのアップロードを依頼
3月 13日	平井ホームページへマップをアップロード